

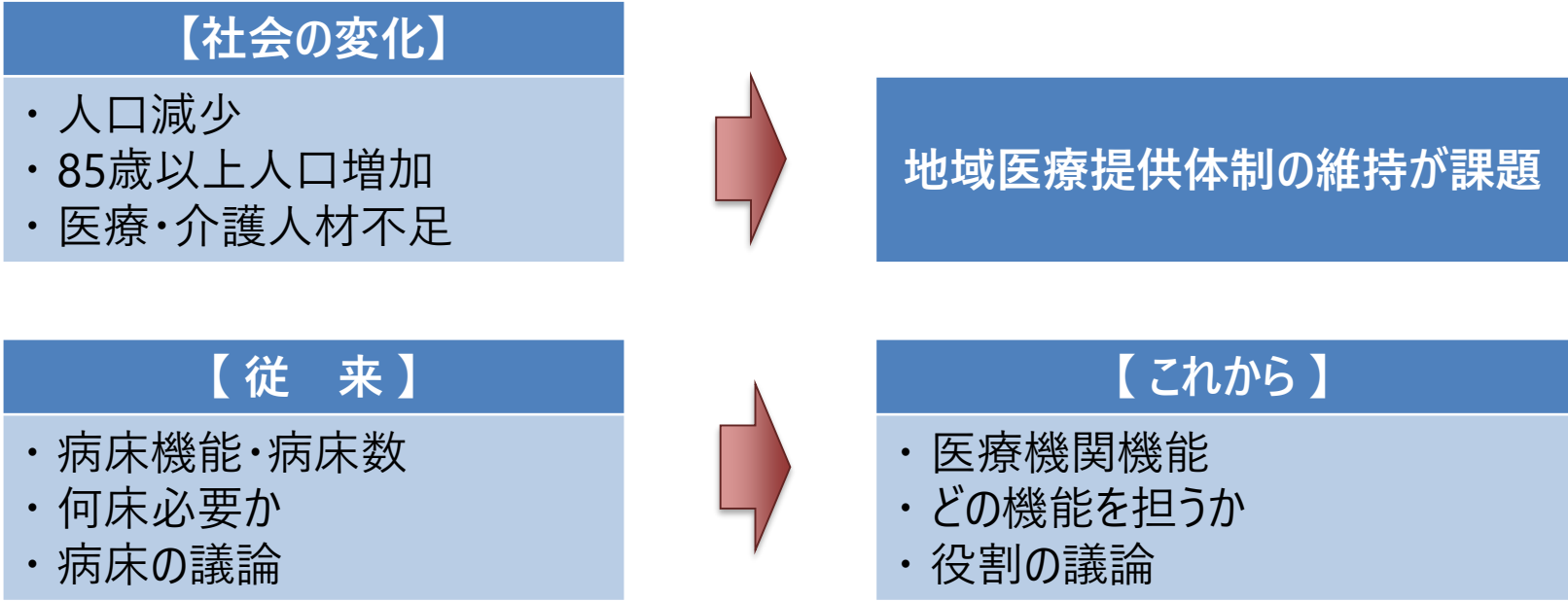
北播磨総合医療センター 2040 Vision

新たな地域医療構想を踏まえた病院の将来像と経営戦略



地域医療構想は新たなステージへ

2040年に向けた医療提供体制の転換



【当医療センターへの示唆】

地域に必要な急性期拠点機能を維持・強化することが、当医療センターに求められる役割である。

Key Message

地域医療構想は、「病床」から「地域に必要な医療機関機能」を確保する考え方へ転換している。

当医療センターに求められる医療機関機能

新たな地域医療構想が示す医療機関機能と当医療センターの役割

新たな地域医療構想で求められる医療機関機能（4機能）

① 急性期拠点機能



◎ 当医療センターの中核機能

② 高齢者救急・地域急性期機能



・ 地域急性期医療を支える

③ 在宅医療等連携機能



・ 地域完結型医療を支援

④ 専門等機能



・ 集中的なりハ・長期入院など

【当医療センターへの示唆】

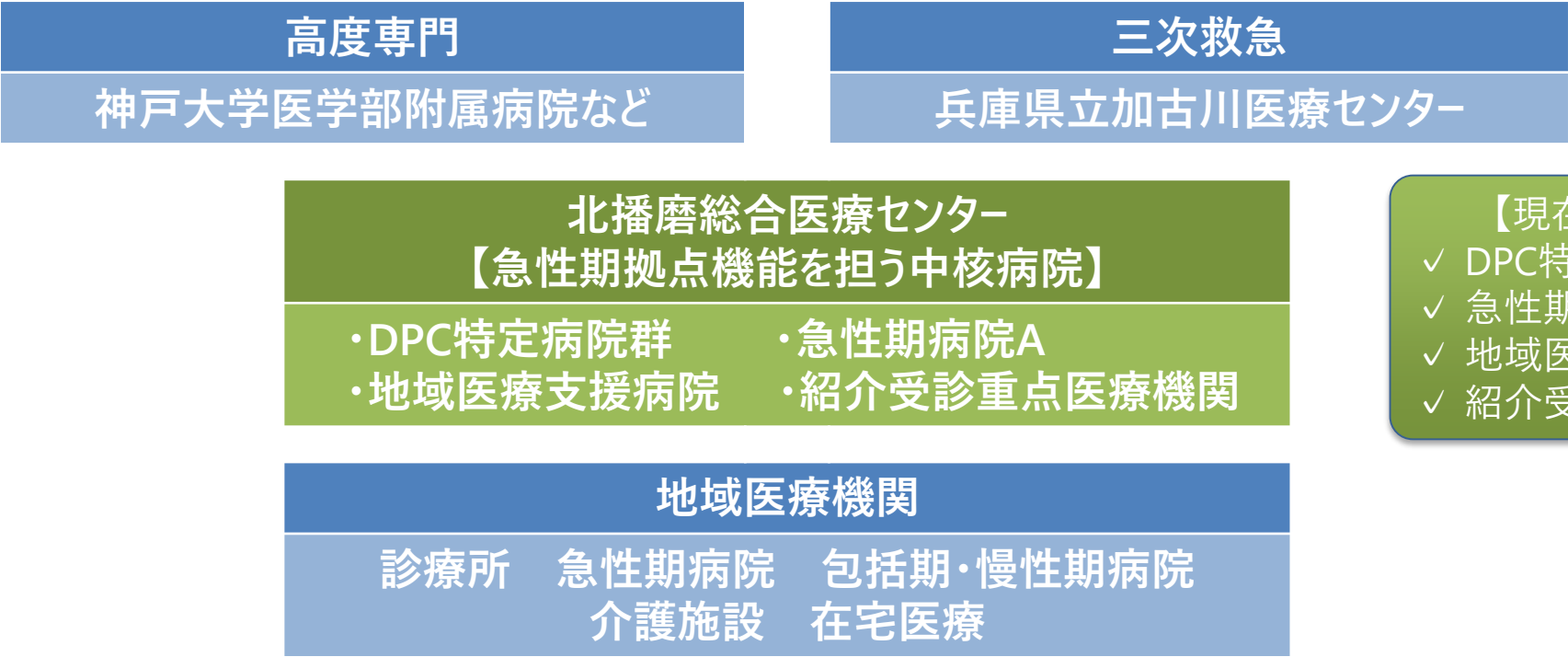
・急性期拠点機能を中核とする ・三次救急を担う加古川医療センターとの機能分担 ・地域の医療機関との連携強化

Key Message

当医療センターは、急性期拠点機能を中核として、北播磨圏域に必要な医療機関機能を担う。

北播磨圏域における当医療センターの位置付け

急性期拠点機能を担う中核病院として北播磨圏域を支える



【当医療センターへの示唆】

新たな地域医療構想において、当医療センターは急性期拠点機能を担う中核病院として、高度専門医療との機能分担と地域医療機関との連携を一層強化することが求められる。

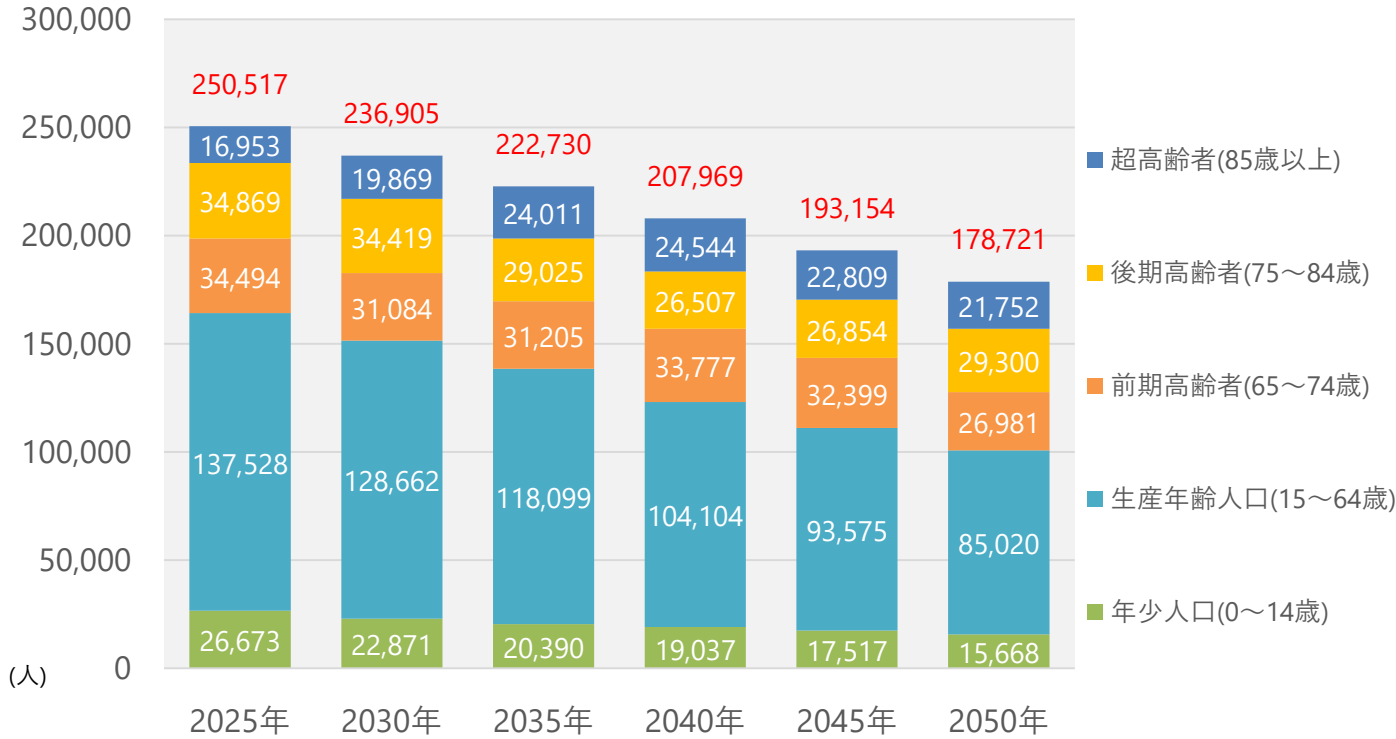
Key Message

当医療センターは、北播磨圏域における急性期拠点機能を担う中核病院として、新たな地域医療構想の中核的役割を担う。

将来の医療需要を左右する人口構造の変化

人口減少よりも、85歳以上人口の増加への対応が重要

人口構造の推移



【ポイント】

- ・ 総人口は減少
- ・ 生産年齢人口は大幅減少
- ・ 75歳以上人口は高水準で推移
- ・ 85歳以上人口は2040年頃まで増加

出典：日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計（国立社会保障・人口問題研究所）

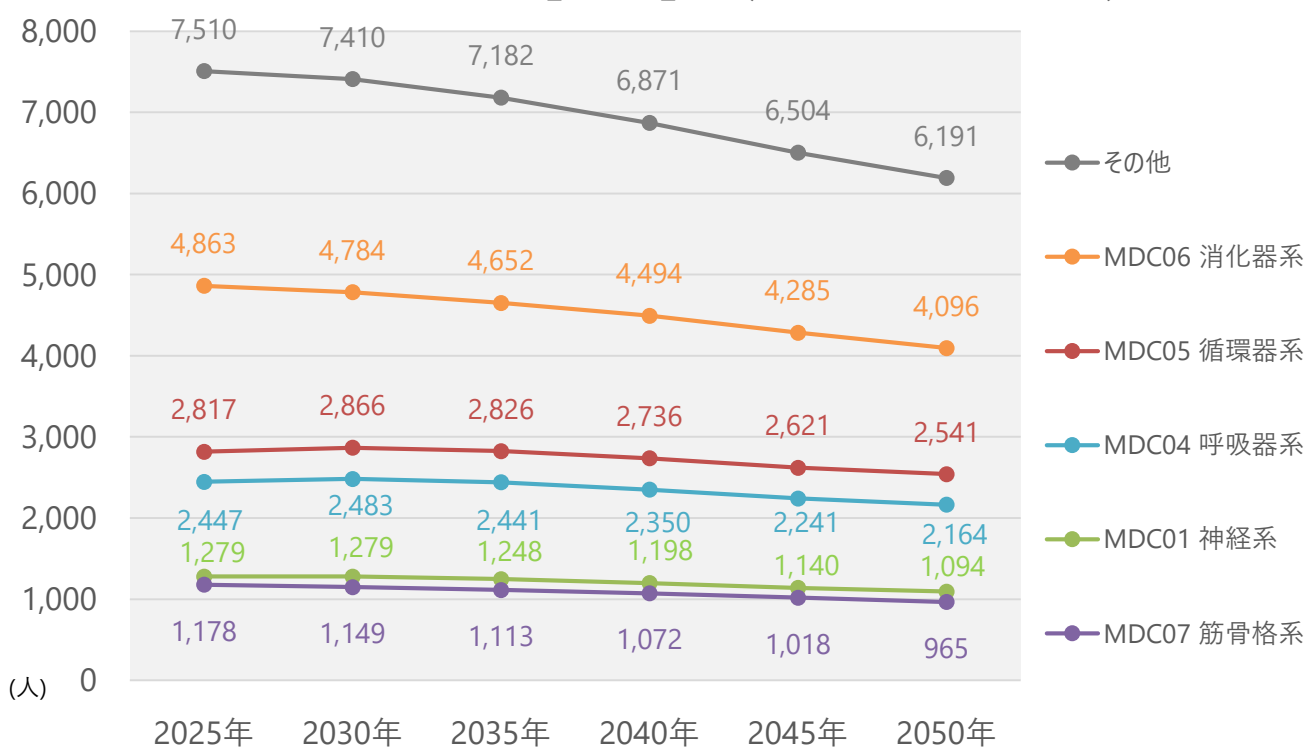
【当医療センターへの示唆】
人口減少への対応だけでなく、高齢患者を中心とした急性期医療への対応が重要となる。

Key Message
人口減少よりも、高齢化による医療需要の変化への対応が今後の経営戦略において重要となる。

2040年に向けた北播磨圏域の急性期医療需要

患者構成の変化を踏まえた急性期医療需要の将来像

MDC別患者推計 [入院] (患者住所地ベース)



【ポイント】

- ・ 消化器系は引き続き最大の医療需要
- ・ 呼吸器系は高齢化に伴い重要性が増す
- ・ 循環器・神経系は大幅な減少は見込まれない
- ・ 高齢患者への急性期医療需要は継続

出典：日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計 (国立社会保障・人口問題研究所)
人口推計 (令和6(2024)年10月1日現在) (総務省統計局)
令和6年度DPCの評価・検証等に係る調査「退院患者調査」(厚生労働省)
推計：人口推計(総務省)、DPC別患者数により、R6発生率(DPC、性・年齢階級)を算出
地域別将来推計人口、R6発生率により、患者数(DPC、性・年齢階級)を推計し、MDC別に集計
退院患者調査のMDC別患者数(患者住所地ベース、圏域の医療機関ベース)により、完結率を算出
MDC別患者数推計(医療機関ベース)、MDC別完結率により、推計

【当医療センターへの示唆】

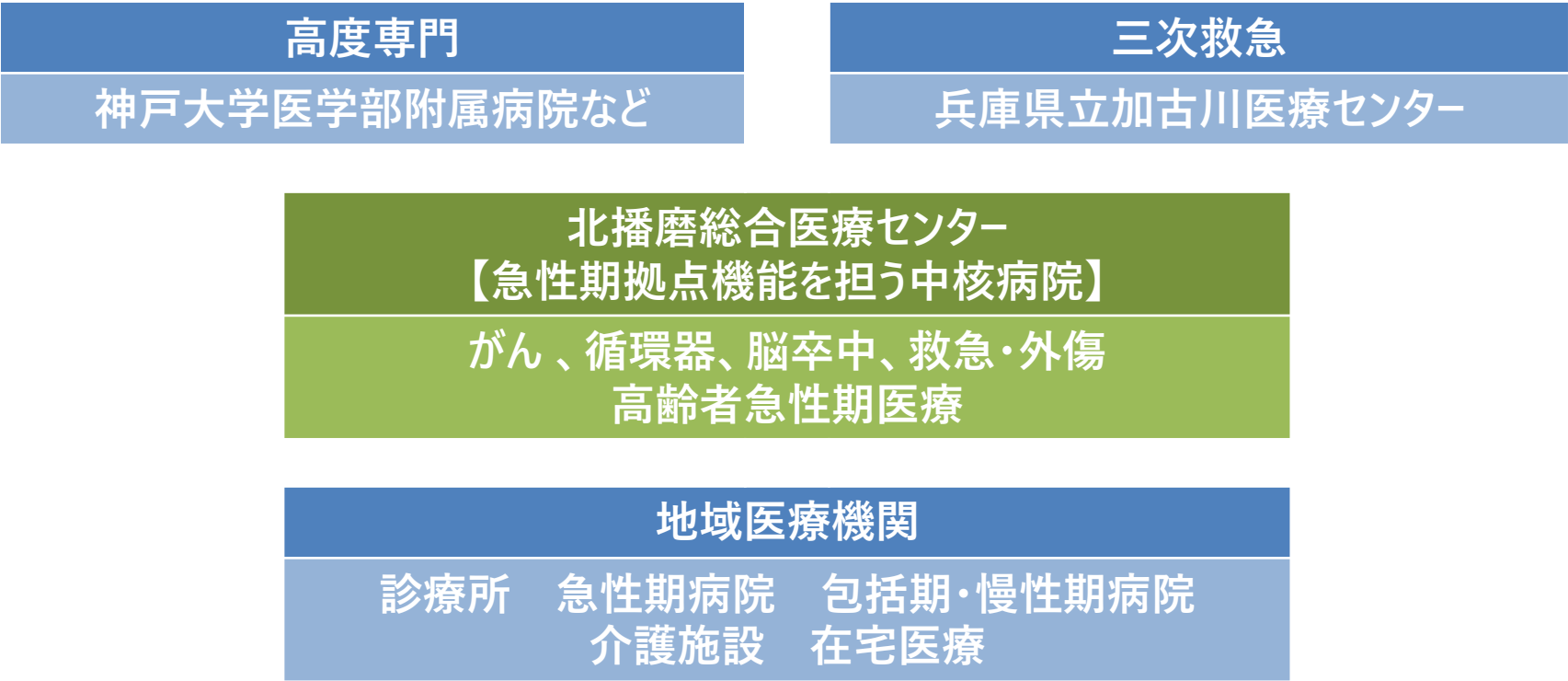
当医療センターが重点的に担う診療領域は、2040年においても地域の主要な急性期医療需要と一致する。

Key Message

急性期医療需要は減少するのではなく、患者構成の変化に対応した医療提供体制が求められる。

北播磨圏域において当医療センターが担う役割

三次救急との役割分担を前提に、北播磨圏域の急性期医療を支える



【当医療センターへの示唆】

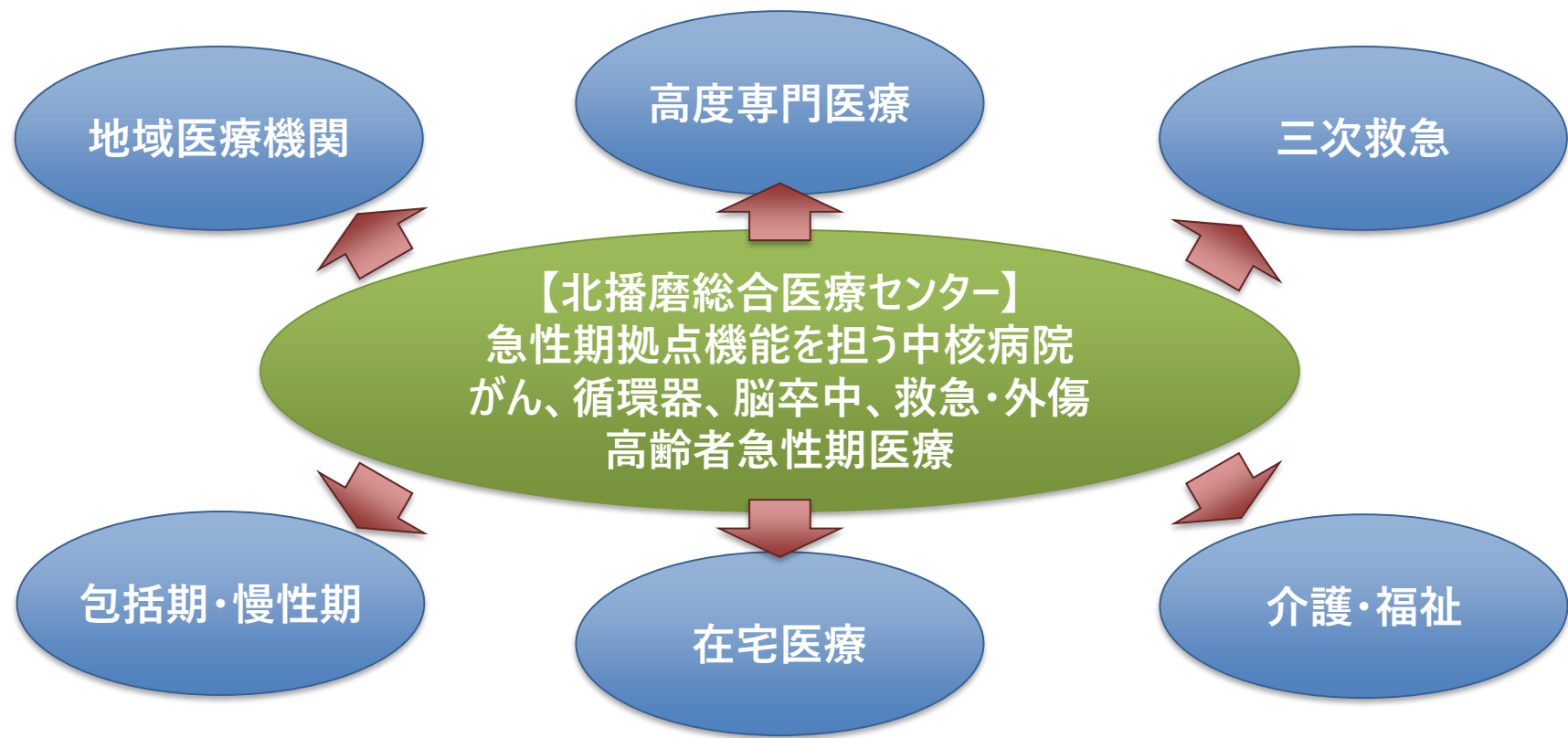
- ・急性期医療の中核を担う
- ・高度急性期との円滑な連携
- ・地域完結型医療の推進

Key Message

当医療センターは、北播磨圏域における急性期拠点機能を担う中核病院として、地域医療提供体制を支える。

2040年に目指す地域医療提供体制

2040年に向けた地域医療提供体制の将来像



【当医療センターへの示唆】

急性期医療を中核に、地域全体で患者を支える「地域完結型医療」の実現

Key Message

当医療センターは、地域医療ネットワークの中核として、急性期医療と地域連携を両立する病院を目指す。

2040 Vision実現に向けた重点戦略

急性期拠点機能の維持・強化に向けた4つの戦略

【2040 Vision】

北播磨圏域の急性期拠点機能を担う中核病院

当医療センターが2040年に担う役割を実現するため、
今後の経営の基本方針として、次の4つを重点戦略と位置付ける。

① 急性期医療機能の強化

- ・ がん
- ・ 循環器
- ・ 脳卒中
- ・ 救急・外傷
- ・ 高齢者急性期医療

③ 人材・組織基盤の強化

- ・ 働き方改革
- ・ 専門人材育成
- ・ チーム医療
- ・ ロボット・AI活用

② 地域医療連携の深化

- ・ 紹介・逆紹介
- ・ 地域医療連携推進法人
- ・ 機能分化・連携
- ・ 急性期後方連携

④ 持続可能な経営基盤の確立

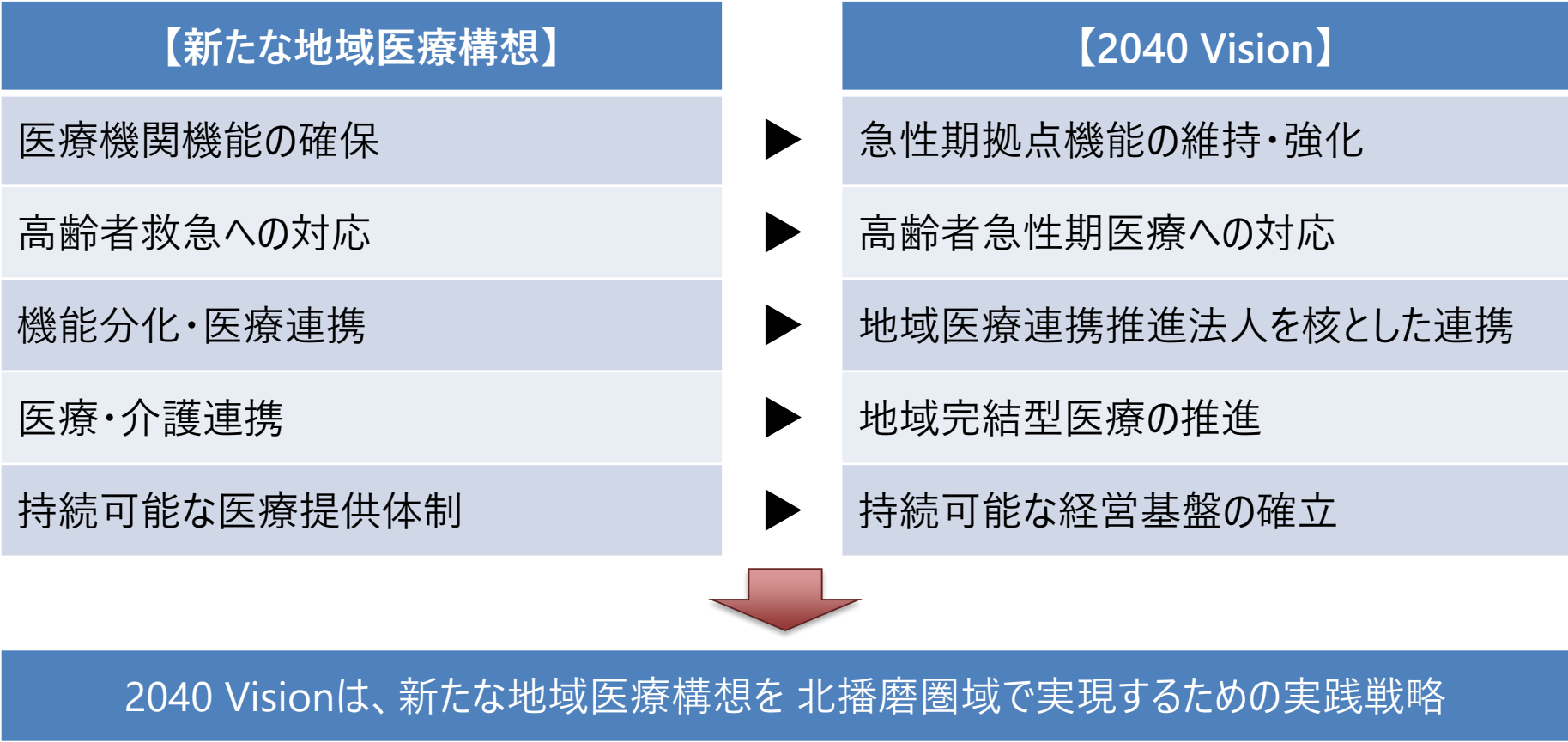
- ・ 経営改善
- ・ 経営マネジメントの高度化（DXなど）
- ・ 業務効率化
- ・ 施設・設備最適化

Key Message

4つの重点戦略を推進することで、2040 Visionを実現する。

2040 Visionと新たな地域医療構想の整合性

当医療センターの将来戦略は、国が目指す地域医療提供体制の方向性と整合している



Key Message

2040 Visionは、新たな地域医療構想の方向性と整合した当医療センターの経営戦略である。

2040 Visionの実現に向けて

地域に必要な急性期医療を未来へつなぐ



【2040年に向けた決意】
当医療センターは、三次救急を担う加古川医療センターとの役割分担を前提としながら、北播磨圏域における急性期拠点機能を担う中核病院として、地域に必要な急性期医療を持続可能な形で提供し続けます。

Key Message
2040 Visionを羅針盤として、北播磨圏域に必要な急性期医療を未来へつなぐ。